

国際化学肥料ニュース（2023年6月）

肥料業界の2023年6月動態

- * ネパール政府は2023～2024年度の化学肥料輸入に2.29億ドルの予算を付けることを発表した。2022～2023年度の化学肥料輸入予算（約1.15億ドル）より倍増する。

- * 6月6日、カナダのCanpotex社は中国と2023年塩化加里輸入基本契約を締結した。年初から急速に下がった塩化加里の相場を考慮して、基本契約は塩化加里のCFR価格が307ドル/トンと決定され、昨年基本契約のCFR590ドル/トンより283ドルの値下げである。4月4日に締結したインドの2023年塩化加里輸入基本契約のCFR422ドルよりも115ドル/トン安くなっている。輸入可能数量が発表されず、契約の有効期限は2023年12月31日までである。

- * Canpotex社と中国との2023年塩化加里輸入基本契約の締結を受け、6月第2週の塩化加里の国際相場が急落した。ドイツのK+S社を除き、カナダ、ロシア、ベラルーシ、イスラエル、ヨルダン産塩化加里の最低FOB価格が300ドル/トン以下に下がり、2021年7月ベラルーシへの経済制裁を発動する前のレベルに戻った。

- * 6月7日、ベラルーシのBPC社はCanpotex社と中国との2023年塩化加里輸入基本契約の締結を受け、声明を発表し、厳しく反対の意を表明した。BPC社は「Canpotex社と中国の基本契約に設定されている価格（CFR307ドル/トン）は安すぎ、世界の塩化加里市場に間違った情報を与え、壊滅的な打撃となる危険性がある。BPC社はこの動きに反対して、同様な契約を結ばない」と述べた。ロシアのUralkali社も同様なコメントを発表した。

- * イギリスの調査会社Argus社の最新レポートによれば、ベラルーシとロシアは西側からの経済制裁により、塩化加里の輸出が急減した。2021年に比べ、ロシアの塩化加里輸出量が約30%減、ベラルーシに至っては67%も減少した。また、カナダのNutrien社の予測によれば、2021年に比べ、2023年のロシア塩化加里輸出量が25～35%減、ベラルーシの塩化加里輸出量が幾分回復するが、それでも25～40%減少するだろう。

- * 6月13日、インドRCF社は尿素国際入札の開札結果を発表した。応札量252万トン、最低応札価格はCFR東海岸284.9ドル/トン、CFR西海岸279.7ドル/トンである。尿素有の国際相場の不振を反映して、前回（3月3日開札）の最低応札価格に比べ、約50ドル/トンも下がった。

- * 6月15日、中国窒素肥料工業協会は2023年の年會に2022年の窒素肥料生産量と消費量、2023～2024年の展望などを発表した。

2022年の中国アンモニア生産能力が3%増の6760万トン、尿素生産能力が0.3%減の6554万トン、窒素肥料生産量（N換算）が2.7%増の4134.5万トン。一方、2022年の中国窒素肥料消費量（N換算）が8.2%増の3642.2万トン、そのうち尿素の実消費量が8.7%増の5478.9万トン。

2023～2024年に合計1034万トンの新規尿素生産能力が稼働され、そのうちグレートアップ生産能力510万トン、新設生産ライン524万トン。生産能力の大幅増加と輸出規制の延長により、国内の尿素余り現象がさらに拡大する。

- * イギリスの調査会社CRUのレポートによれば、2022年ロシアとベラルーシへの経済制裁によりロシアの塩化加里輸出量が30%以上も減少され、年間輸出量が800万トン未満となり、ベラルーシがさらに悪く、490万トンしか輸出されず、60%以上も減少した。それによって、世界の加里相場が急騰し、2022年4～5月のCFRブラジル価格が1150ドル/トンの史上最高値を記録した。ただし、2023年ロシアの塩化加里輸出量が820万トン、ベラルーシの塩化加里輸出量が780万トンに回復される見込みである。

ロシアとベラルーシ産加里の輸出が回復されることに加え、2023～2027年の5年間に世界塩化加里の新規生産能力の大幅の増加があり、2027年に世界の塩化加里生産能力が2021年より1670万トンも増える見込みである。

一方、2023年世界の塩化加里需要量が8.9%増の6420万トンに回復するが、2020と2021年のそれぞれ7100万トンまでまだ時間がかかる。供給増により、2023～2024年の塩化加里国際相場がゆっくり下落し、2020年以前のレベルに戻される可能性が非常に高い。

- * 6月12日開札されたインドRCF社の尿素国際入札について、契約数量が東海岸9.5万トン、西海岸49万トンの計58.5万トン、主に中東産のもので、一部がロシア産のものである。

- * 中国税関の速報によれば、2023年5月の中国化学肥料輸出数量が急増し、前年同期より44.3%増、前月より40.2%増の215万トン。その内訳は硫安102万トン、尿素18万トン、DAP52万トン、MAP21万トン。これは5月1日から化学肥料輸出の「法定検査」が緩くなり、60～90日にかかる検査機関が10～30日に短縮されたことで、輸出しやすくなった。

一方、5月の中国化学肥料輸入量が前年同期より3.5%増、前月より19.1%減の89万トン。その内訳は塩化加里66万トン、NPK化成肥料21万トン。

- * 6月第4週（19～25日）の尿素国際相場は2ヶ月ぶりに反発した。中東尿素のFOB価格が260ドル/トンから約15～20ドルも上昇した。その起因はインドRCF社の6月12日開札された尿素国際入札が中東産尿素23～24万トンを契約して、在庫をほぼ一掃したためである。また、マレーシアPETRONAS社の2つの生産ラインに問題が発生し、ブルネイのBFIも同様の理由で市場への製品供給が不足している。
一方、EUの天然ガス価格が上昇したことで、北アフリカ産の大粒尿素が6月中旬に13万トン以上も販売され、FOB価格も340ドル/トンに上昇した。ただし、今後数カ月間にインドからの輸入減少と相まって、中国の輸出拡大努力も予測され、尿素の国際相場の動向に不確実性が高まっている。
- * 6月15日、ロシアのUralkaly社は中国の化学肥料商社5社との間に塩化加里を輸出する契約を締結したことを発表した。その主な内容はUralkaly社が毎年1社ごとに20～30万トン塩化加里を輸出して、3年間で総量350万トンを供給する。輸出価格が塩化加里の市況に従い、月1回で協議して決めるという。
- * 6月23日、イスラエルのICL社は中国と2023年塩化加里輸入基本契約を締結したことを発表した。供給数量80万トンに35万トンの追加オプションも付けている。基本契約は塩化加里のCFR価格が307ドル/トンと決定され、カナダのCanpotex社と同じである。
- * バングラディッシュ農業省は民間部門向けのりん酸肥料国際入札を発表した。購入予定数量はDAP40万トン、MAP3万トン、重過りん酸石灰20万トン、6月25日締め切りと開札。1社の最大応札数量は4万トンDAPと3万トンMAPまたは重過りん酸石灰で、9月30日まで船積みという条件である。
- * 6月26～27日、韓国サムスングループのサムスン商事は中国のアジア加里（Asia-Potash）社のラオス塩化加里鉱山と精製工場を訪問し、ラオス産加里肥料の購入販売枠に関する協定を締結した。2023～2024年度の1年間にアジア加里社がサムスン商事に20万トン塩化加里を提供し、サムスン商事はそれを世界中に販売するという内容である。
- * 6月第5週（26～7月2日）の尿素国際相場は前週に続き、上昇している。主な理由は天然ガスの価格高騰であるほか、マレーシアPETRONAS社の尿素生産ラインの故障で、稼働再開まで時間がかかる。品不足の心配があり、バイヤーは一斉中東と北アフリカから尿素を掻き集めるように動き出した。エジプト産大粒尿素はFOB340～355ドル/トン、アルジェリア産大粒尿素はFOB340～350ドル/トンに上昇し、6月第1週に比

べて 60～70 ドルの値上げとなっている。ただし、ロシア産尿素や中国産尿素は値動きせず、依然 FOB 価格が 250 ドル/トンと 300 ドル/トンに保っている。

- * 6 月のアンモニア国際相場は尿素の安値から回復されたことに拘らず、まだゆっくり下落している。その証拠は CFR アメリカタンパの 7 月契約価格が 6 月より約 55 ドル/トンの下落ではっきり示される。ただし、インドでの堅調な需要とマレーシア、インドネシアの減産を背景に需給バランスが逼迫しているため、東半球の 7 月以降のアンモニア価格が安定するだろう。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * エジプトの KIWA 社は上エジプトの Aswān にある工業団地に硝酸と硝安の新規生産ラインを建設することを発表した。投資額約 3 億ドル、生産能力は硝酸 600 トン/日、肥料用粒状硝安 800/トンで、2026 年上期に完成し、稼働する計画である。
- * 6 月 15 日、ノルウェーの Yara 社は中国に初めての液体専用肥料工場を完成し、稼働し始めると発表した。当該液体専用肥料工場は中国安徽省淮北市にあり、年間生産能力 6 万トン。
- * アメリカの Koch Fertilizer 社は 1 億 4000 万ドルを投じて、アイオワ州 Fort Dodge 工場のアンモニアプラントを改修することを発表した。主な改修内容は Johnson Matthey の高性能触媒 KATALCOTM 74-1 と uhde 合成プロセスを導入して、低い圧力 (960 psig/66 barg) でアンモニアを合成する。改修後、アンモニア生産能力が 8.5 万トン増加し、38.5 万トンに達する。
- * オーストラリアの NeuRizer 社は南オーストラリア州の尿素工場に年間生産能力 100 万トンの 2 本目の生産ラインを増設する計画を発表した。すでに南オーストラリア州の環境評価審査段階に入り、承認され次第、着工するという。
- * ノルウェーの Yara 社はヨーロッパにある一部のアンモニア工場を閉鎖する代わりにアメリカに最大 20 億ドルを投資して、最大 200 万トンのブルーアンモニアを生産する計画を検討している。イギリスの Hull 工場 (生産能力 30 万トン) とベルギーの Tertre 工場 (生産能力 40 万トン) が閉鎖候補リストに上がり、アメリカテキサス州に 2 つの工場を新設する予定である。

その他

- * サウジアラビアの SABIC Agri-nutrients 社は台湾の TFC 社に 5000 トンブルーアンモニアを輸出した。ブルーアンモニアとは合成時に発生した二酸化炭素を処理して、温室ガスの排出量を低減したアンモニアを指す。SABIC 社のブルーアンモニアはすでに日本、韓国、インドなどに輸出したが、今回は初めて台湾に輸出したケースである。
- * サウジアラビアの Ma'aden 社は初めて EU に 2.5 万トンブルーアンモニアを輸出し、6 月 27 日にブルガリアの Varna 港に到着することになる。さらに 2 隻の船で計 5 万トンのブルーアンモニアを輸出する予定である。
- * 国際肥料工業協会 (IFA) はアメリカ CF Industries 社長の Tony Will 氏を会長、オーストラリア Incitec Pivot 社の CEO Jeanne Johns 氏を副会長に選出した。ほかに 7 名の理事も選出して、新しい理事会を構成する。
- * 6 月 17 日、EU は尿素とアンモニアの輸入関税の徴収を再開した。昨年の天然ガス価格高騰により、EU 内に多くのアンモニアと尿素工場が減産または一時生産停止に追い込まれ、価格が高騰した。尿素とアンモニア価格の高騰を抑えるために、昨年 12 月 EU 委員会は輸入関税を 6 ヶ月停止すると発表した。それを受け、ナイジェリアとアラブ首長国連邦、マレーシアなどから尿素とアンモニアの輸入が急増した。
今年 3 月以降、天然ガスの価格低下により、EU 内のアンモニアと尿素生産が正常化に戻され、輸入関税の停止措置を延長されなかった。6 月 17 日からアンモニアに 5.5%、尿素に 6.5%の輸入関税徴収が再開された。ただし、エジプト、アルバニア、トリニダード・トバゴ産尿素とアンモニアは引き続き輸入関税が免除されるという。